

群馬県
「欠席連絡（感染症情報）の
データ連携事業・事業運営業務」

第3回事業運営検討会

令和7年12月9日

事業運営検討会 メンバー

- **公益財団法人日本学校保健会**
- **学校等欠席者・感染症情報システム運営事業者（株式会社エスイーシー/有限会社おうみコンピューターシステム）**
- **一般財団法人全国地域情報化推進協会（APPLIC）**
- **一般社団法人こどもDX推進協会**
- **内閣官房デジタル行財政改革会議事務局**
- **文部科学省健康教育・食育課**
- **こども家庭庁保育政策課**
- **厚生労働省感染症対策課**
- **群馬県**
 - ・ 教育委員会総務課
 - ・ 教育委員会健康体育課(学校保健担当)
 - ・ こども・子育て支援課(保育施設担当)
 - ・ 感染症・疾病対策課(保育所担当)
 - ・ 戦略企画課(新地創交付金担当)
- **委託事業者**
 - ・ 校務支援システム・汎用クラウドサービス導入事業者（Ddrive株式会社、株式会社滋野堤水堂）
 - ・ 保育ICTシステム事業者（株式会社コドモン）
 - ・ 交付金事務局事業者（PwCコンサルティング合同会社）

アジェンダ

- 1. 交付金事業の概要（再掲）**
- 2. 保育実証の進捗状況**
- 3. 校務実証の進捗状況**
- 4. 今後のスケジュール**
- 5. 事務連絡**

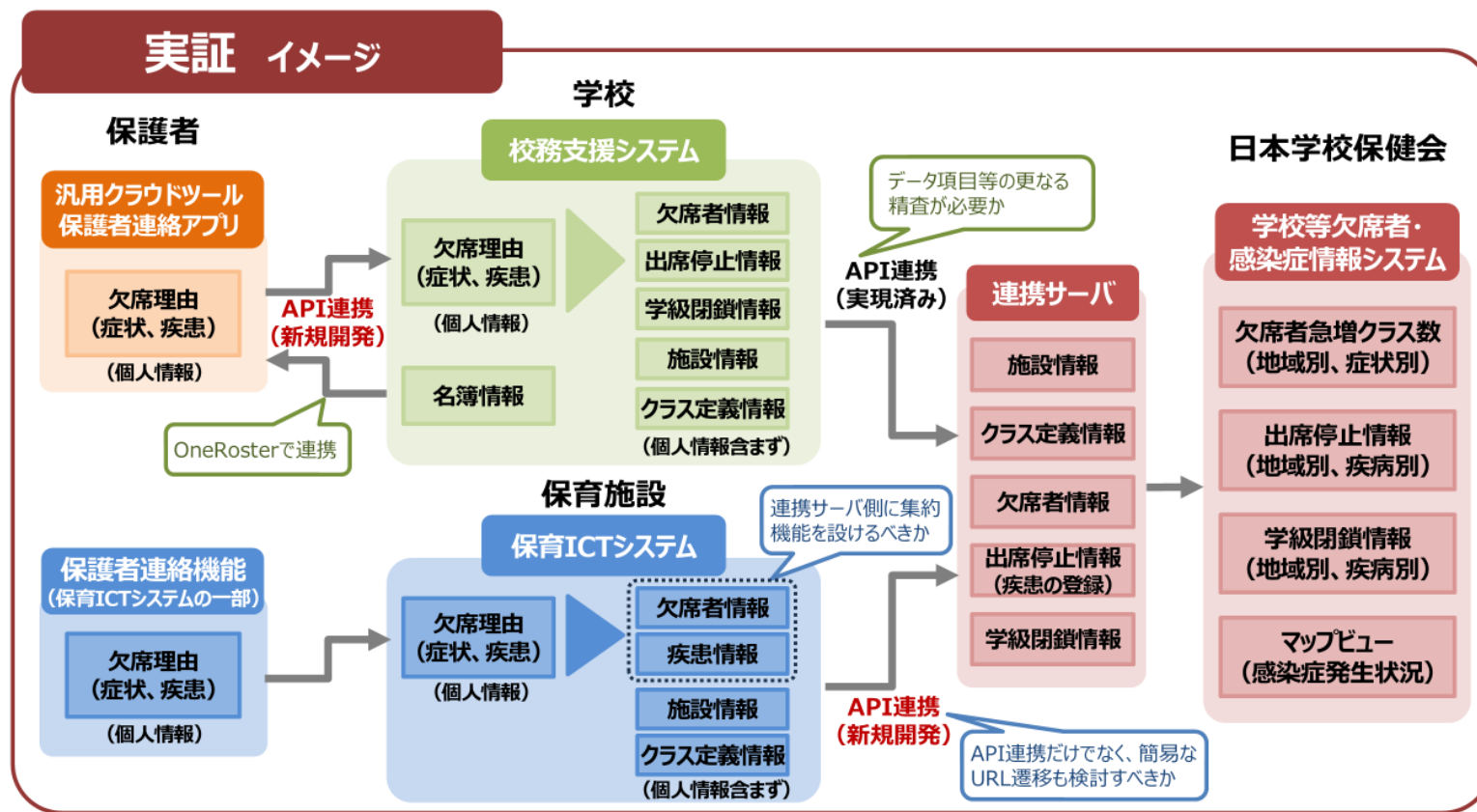
交付金事業の概要(再掲)

交付金事業の概要

TYPESにおける実証イメージ

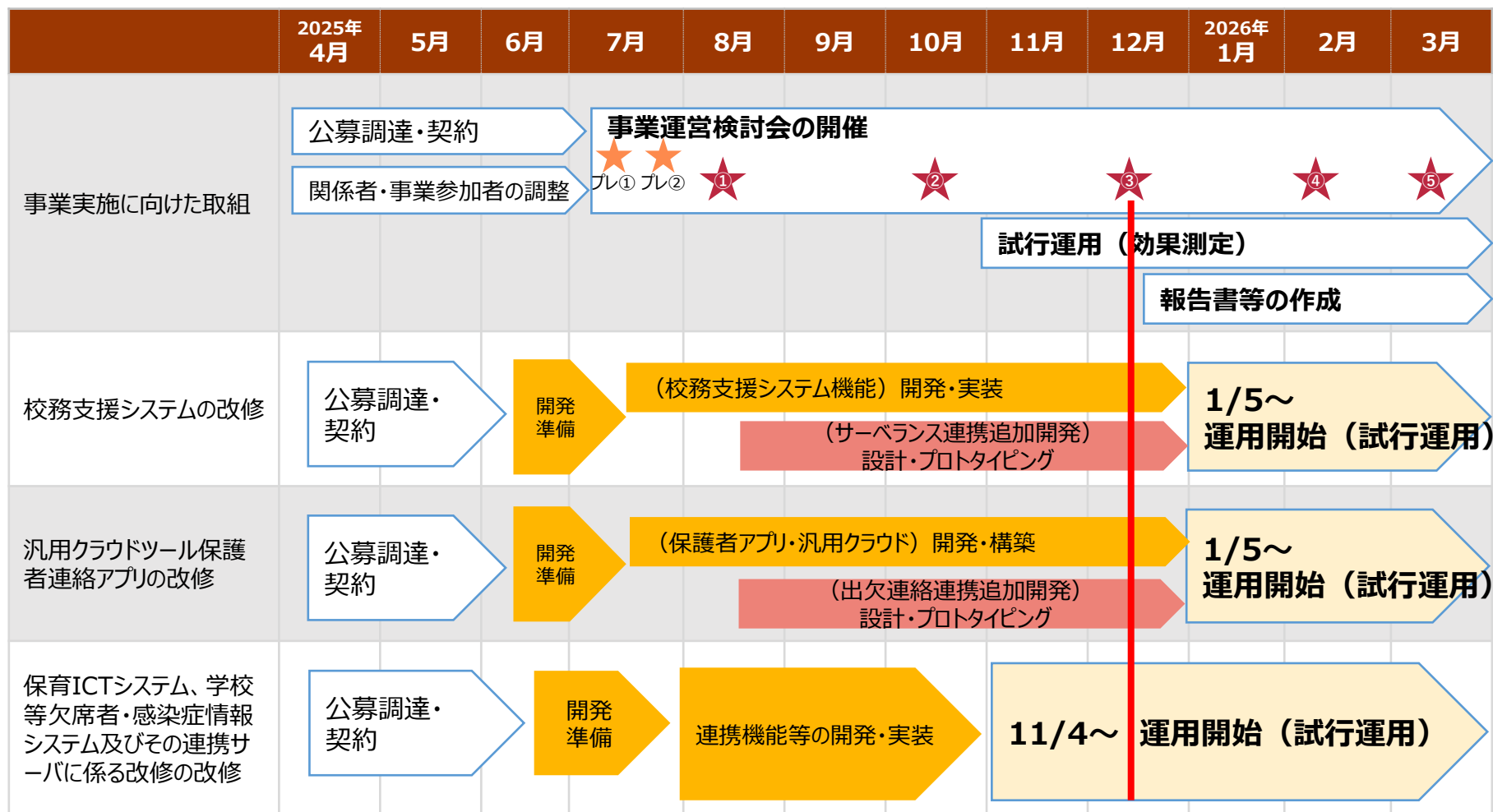
デジタル行財政改革会議

- 【学校】 「汎用クラウドツール」又は「保護者連絡アプリ」から「校務支援システム」へのデータ連携を可能とする。
（「校務支援システム」から「連携サーバ」へのAPI連携は実現済み。）
- 【保育施設】 「保育ICTシステム」から「連携サーバ」へのデータ連携を可能とする。
（「保護者連絡機能」は「保育ICTシステム」の機能の一部として実装済み。）



交付金事業の概要（全体スケジュール）

- ✓ 実証内容や標準仕様案等の検討について、事業運営検討会で合意形成を図りながら進めており、**保育部分は11月から実証を開始しました。また、校務部分は来年1月からの実証開始**に向けて、各種実証環境の構築等を実施中です。

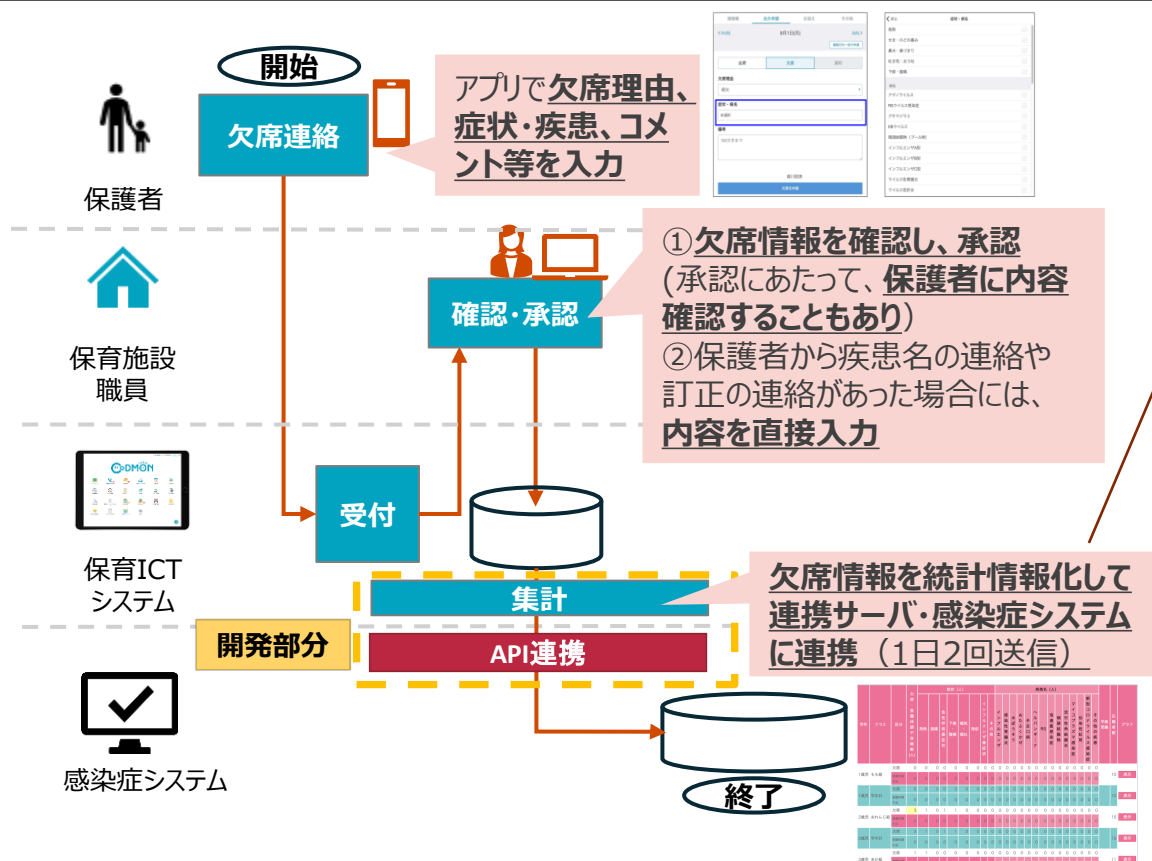


保育実証の進捗状況

保育実証の進捗状況（実証の進捗状況）

- ✓ 11月4日から実証を開始し、保護者からの欠席連絡に基づく欠席情報等を感染症システムに自動連携しています。
- ✓ 実証期間中は1日に2回（午前午後それぞれ1回ずつ）欠席情報を連携しています。

欠席情報の感染症システムへの連携（データ連携の詳細）



データ連携時刻等

項目	送信内容	締切時間	バッジの開始時刻	感染症システムでの表示時刻
クラス情報等	クラス名 クラスの所属人数 等	6:00	9:00	10:00
欠席情報（午前）	保護者により送付された 症状・疾患の情報	12:00	15:00	16:00
欠席情報（午後）	同上	18:00	21:00	22:00

データ連携結果

2025年11月14日

学年	クラス	クラス種別	区分	欠席・登園体調不良総数(人)	症状 (人)										疾患名・出席停止 (人)										学級閉鎖	在籍者数	
					発熱	頭痛	急性呼吸器症状	下痢・腹痛	嘔気・嘔吐	インフルエンザ様症状	インフルエンザ	その他	おたふくかぜ	水ぼうそう	感染性胃腸炎	ヘルパンギーナ	手足口病	RS	溶連菌感染症	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	マイコプラズマ感染症	伝染性紅斑	新型コロナウイルス感染症			その他の疾患
0歳児	すくすくたんぼ組	保育園型	欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			登園体調不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0歳児	0歳児組	保育園型	欠席	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			登園体調不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0歳児	学年計		欠席	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			登園体調不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

保育実証の進捗状況（データ標準案の検討①）

- ✓ 感染症システムとの連携にあたっては、現状必要とされるクラス情報等のデータ項目について、実証では以下のとおり対応を実施し、データ連携を行っています。
- ✓ データ標準案の検討にあたっては、国の検討状況（例：こども家庭庁「保育現場でのDXの推進に向けた調査研究事業」データセット（案）等）も参考にし、今後、関係者間で検討を進める想定です。

感染症システムにおけるクラス情報等必要な項目名	実証における対応	データ標準案を検討する上で論点となる事項
都道府県コード	固定値を送信（群馬県の都道府県コード10を送信）	都道府県コードとしてデータ標準を適用
学校コード	エスイーシー社による感染症システムにおける固有のコードを送信	感染症システム独自のものとなっており、 共通的な保育施設のID体系の活用を検討する必要がある 子ども・子育て支援情報公表システム「ここdeサーチ」等における施設コード等を標準とすることも一案
年度	固定値を送信（実証が本年度内限りのため2025を送信）	－
適用年月日	送付日時を送信	表示形式をISO等に沿って定義する必要（YYYY-MM-DD 等）
学年	エスイーシー社による「校務支援システム連携用インターフェイスファイル定義案」における学年シートをもとに連携	学年の附番ルールなど、一定の基準が必要
クラス番号	保育ICTシステム側にて通し番号を付与し連携	クラス番号の附番ルールなど、一定の基準が必要
クラス名称	施設へクラス名称をヒアリングし、保育ICTシステム上の表記と感染症システム上の表記を紐づけ連携	クラス名称の附番ルールなど、一定の基準が必要
生徒数	送付時におけるクラスの園児数を連携（毎日送信）	いつ時点の園児数とするのか、また、変更があった場合の対応ルール など、一定の基準が必要
幼保区分	保育ICTシステム側で各保育施設に対し幼保区分をヒアリングし、データ連携	幼保区分のデータを網羅的に確認できる仕組み等が必要（各ベンダーで確認することは手間）

保育実証の進捗状況（データ標準案の検討②）

- ✓ 実証においては、日々の状況入力画面における症状や疾患項目について、保育ICTシステムが有している症状・疾患のデータ項目を対応させたくて連携を実施しています。
- ✓ データ標準案の検討にあたっては、連携必須とする症状・疾患名やその表記方法、その他の疾患項目に紐づけるべき疾患のルール等について、今後、関係者間で検討を行い、整理する想定です。

<感染症システムにおける日々の状況入力画面>

学年	クラス	区分	欠席・登園体調不良総数(人)	症状(人)														学年閉鎖	在籍者数	グラフ							
				発熱	頭痛	急性呼吸器症状	下痢・腹痛	嘔気・嘔吐	発疹	その他	インフルエンザ様症状	インフルエンザ	感染性胃腸炎	水ぼうそう	おたふくかぜ	手足口病	ヘルパンギーナ				RS	溶連菌感染症	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	マイコプラズマ感染症	伝染性紅斑	新型コロナウイルス感染症
1歳児	もも組		欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	表示
1歳児	学年計		欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	表示
2歳児	おれんじ組		欠席	3	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	表示
2歳児	学年計		欠席	3	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	表示
3歳児	あか組		欠席	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	表示

<実証における症状・疾患との対応関係>

※表中の項目以外の疾患についてもデータ連携を実施している

感染症システムにおけるID	感染症システムにおける項目名	保育ICTシステムにおける項目名
10	熱	
20	頭痛	
30	咳	
40	下痢、腹痛	
50	吐気、嘔吐	
60	発疹	
70	インフルエンザ様症状	
100	その他症状	
1110	インフルエンザA型	
1120	インフルエンザB型	
1099	インフルエンザ	
1150	感染性胃腸炎	
1001	水痘(みずぼうそう)	
1002	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	
1180	手足口病	
1190	ヘルパンギーナ	
1200	RS	
1160	溶連菌感染症	
1003	咽頭結膜熱	
1009	流行性角結膜炎	
1170	マイコプラズマ感染症	
1210	伝染性紅斑	
1510	新型コロナウイルス感染症	
1011	その他の疾患	

**保育ICTシステムでの
症状・疾患の表記と
紐づけを実施**

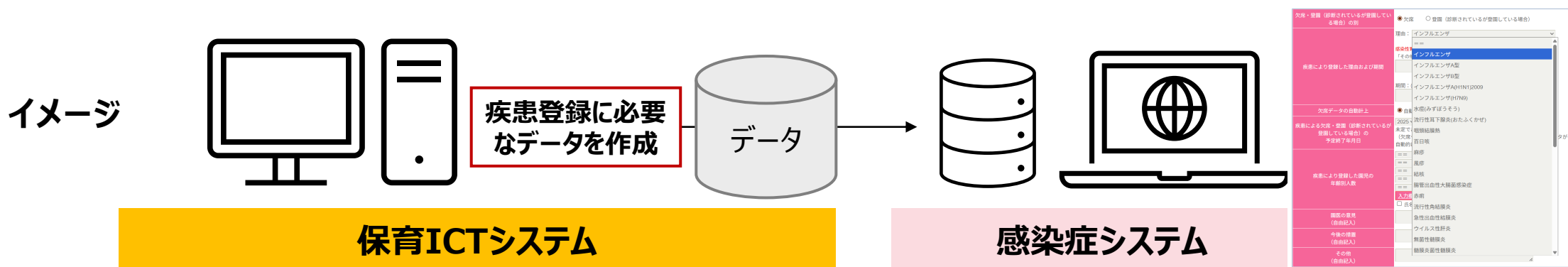
※個別プロダクト情報で企業秘密情報に関わるため非公開

保育実証の進捗状況（疾患登録のデータ連携イメージの具体案の検討①）

- ✓ 案 1 は保育ICTシステム側で日付ごとに発生した疾患別新規人数を作成して連携する案です。
- ✓ 感染症システム側で必要なデータの自動連携が可能となる一方で、保育ICTシステム側でシステム改修等の負担が生じることが想定されます。

案	概要	保育施設職員等の負担の観点	感染症対策/感染症システム側のシステム改修負担等の観点	保育ICTシステム側のシステム改修負担等の観点
<案 1> 保育ICTシステム側でデータ作成	保育ICTシステム側でデータ作成し、連携 (過去分を含む個人別・日付別の欠席データをもとに、特定の日付に発生した疾患別新規人数を作成)	データの自動連携により、手入力の負担が軽減	これまでと同精度のデータを取得可能	大幅なシステム改修コストが発生 改修の必然性等がない限り難しい

事務局仮説(ヒアリング等にて議論)



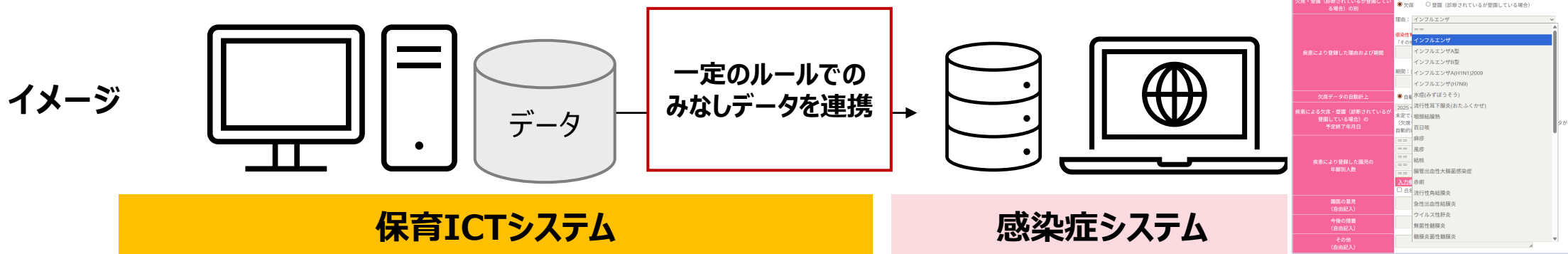
保育実証の進捗状況（疾患登録のデータ連携イメージの具体案の検討②）

- ✓ 案2は保育ICTシステム側で有しているデータをもとに、一定のルールを決め日付ごとに発生した疾患別新規人数とみなしたデータを連携する案です。
- ✓ 保育ICTシステム側のデータで対応できる可能性がある一方で、日付ごとに発生した疾患別新規人数のみなしデータが感染症対策に必要な精度であるかなど、検証が必要となることが想定されます。

案	概要	保育施設職員等の負担の観点	感染症対策/感染症システム側のシステム改修負担等の観点	保育ICTシステム側のシステム改修負担等の観点
<案2> 保育ICTシステム側で有しているデータをもとに、一定のルールに基づくみなしデータを連携	保育ICTシステム側で有しているデータをもとに、 <u>一定のルール*を決め、疾患別新規人数とみなしたデータを連携</u>	データの自動連携により、手入力の負担が軽減	新規疾患患者数と完全に一致するわけではないため、データの精度が低下し、感染症対策で利用できる精度かどうか検討が必要	既存のデータによって感染症システムへデータ連携できる可能性が高い

事務局仮説(ヒアリング等にて議論)

※一定のルール：特定の日付の疾患別人数をもって疾患別新規人数とし過去にさかのぼってデータを修正しない、さかのぼりを単純化して処理する等



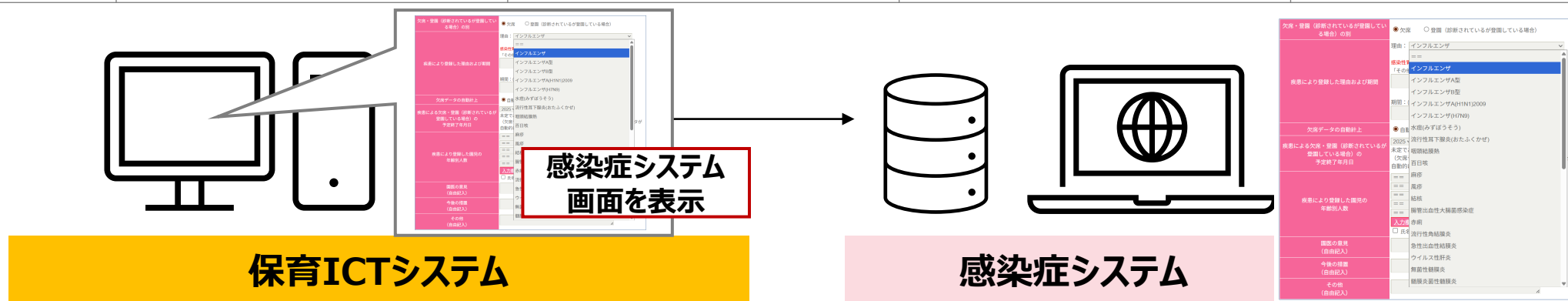
保育実証の進捗状況（疾患登録のデータ連携イメージの具体案の検討③）

- ✓ 案3は保育ICTシステムや感染症システムなど、複数のシステムにまたがってデータ入力を行う保育施設職員の負担軽減のため、保育ICTシステム側で感染症システムのデータ入力をできるようにする案です。
- ✓ 保育ICTシステム側でまとめて入力できるようになる一方で、保育ICTシステムや感染症システムの改修負担も発生します。

案	概要	保育施設職員等の負担の観点	感染症対策/感染症システム側のシステム改修負担等の観点	保育ICTシステム側のシステム改修負担等の観点
<案3> 保育ICTシステム側で感染症システムのデータ入力画面を実装	保育ICTシステム側に、感染症システムのデータ入力画面を表示させ、 保育ICTシステム側の管理画面等からデータ入力をできるようにする	保育ICTシステム側で感染症情報を入力可能 データ入力負担は変わらず	これまでと同精度のデータを取得可能 改修負担も発生	感染症システムのデータ入力画面を表示させる機能等、 改修のシステム改修負担が発生

事務局仮説(ヒアリング等にて議論)

イメージ



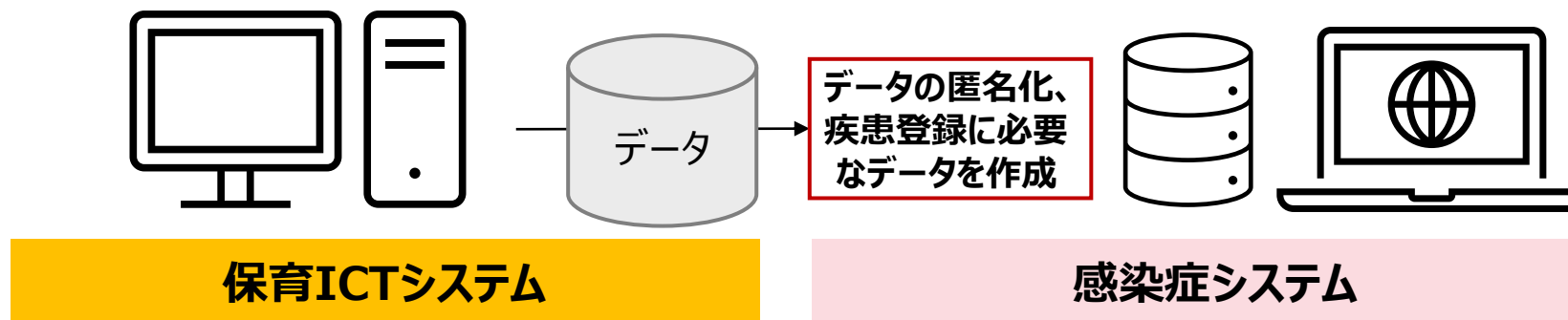
保育実証の進捗状況（疾患登録のデータ連携イメージの具体案の検討④）

- ✓ 案4は、保育ICTシステム側から感染症システム側へローデータのまま連携し、感染症システム側でデータの匿名加工等、必要な処理を行う案です。
- ✓ 感染症システム側で個人情報の取扱い対応や日付ごとに発生した疾患別新規人数を作成する機能を開発する必要があります。

案	概要	保育施設職員等の負担の観点	感染症対策/感染症システム側のシステム改修負担等の観点	保育ICTシステム側のシステム改修負担等の観点
<案4> 保育ICTシステム側からローデータを連携し、感染症システム側でデータ作成	保育ICTシステム側から欠席データをローデータのまま感染症システム側へ連携し、 感染症システム側で匿名加工等を実施し、日付ごとに発生した疾患別新規人数を作成	データの自動連携により、手入力の負担が軽減	個人情報の取り扱いについて必要なセキュリティ等の対策が必要 取得データをもとに疾患データを作成する仕組みの実装が必要	感染症システムへのデータ連携について、同意取得等の仕組みの実装が必要 (規約等の変更だけでなく、追加開発等の必要もあり得る)

事務局仮説(ヒアリング等にて議論)

イメージ



保育実証の進捗状況（疾患登録のデータ連携イメージの具体案の検討⑤）

- ✓ 関係者ヒアリング等を実施し、各案ごと・観点ごとに、課題となる事項を洗い出したうえで、実現可能性を評価し、仕様案等の関連文書に反映する想定です。

案ごとの評価イメージ

案	概要	保育施設職員等の負担の観点	感染症対策/感染症システム側のシステム改修負担等の観点	保育ICTシステム側のシステム改修負担等の観点
<案1> 保育ICTシステム側でデータ作成	保育ICTシステム側でデータ作成し、連携（過去分を含む個人別・日付別の欠席データをもとに、特定の日付に発生した疾患別新規人数を作成）	データの自動連携により、手入力の負担が軽減	これまでと同精度のデータを取得可能	大幅なシステム改修コストが発生 改修の必然性等がない限り難しい
<案2> 保育ICTシステム側で有しているデータをもとに、保育ICTシステム側で取得できるデータを一定の基準で新規感染者数とみなし連携	保育ICTシステム側で有しているデータをもとに、一定のルールを決め、疾患別新規人数とみなしたデータを連携	データの自動連携により、手入力の負担が軽減	新規患者数と完全に一致するわけではないため、データの精度が低下 感染症対策で利用できる精度かどうか検討が必要	既存のデータによって感染症システムへデータ連携できる可能性が高い
<案3> 保育ICTシステム側で感染症システムのデータ入力画面を実装	保育ICTシステム側に、感染症システムのデータ入力画面を表示させ、保育ICTシステム側の管理画面等からデータ入力をできるようにする	保育ICTシステム側で感染症情報を入力可能 データ入力負担はこれまでとは変わらず	一方でシステム改修負担も発生	感染症システムのデータ入力画面を表示させる機能等、相応のシステム改修負担が発生
<案4> 保育ICTシステムからローデータを連携し、感染症システム側でデータ作成	保育ICTシステム側から欠席データをローデータのまま感染症システム側へ連携し、感染症システム側で匿名加工等を実施し、日付ごとに発生した疾患別新規人数を作成	データの自動連携により、手入力の負担が軽減	個人情報の取り扱いについて必要なセキュリティ等の対策が必要 取得データをもとに疾患データを作成する仕組み等の実装が必要	感染症システムへのデータ連携について、同意取得等の仕組みの実装が必要 (規約等の変更だけではなく、追加開発等の必要もあり得る)

関係者ヒアリング等にて
実現可能性等を検討

保育実証の進捗状況（仕様案の策定に向けた検討状況）

- ✓仕様案についてのアジェンダ案を検討し、各項目執筆に向けた検討を開始しています。今後、関係者のご意見を定期的にお聞きしながら、実証での成果等も踏まえ最終化していく想定ですので、ご協力をお願いいたします。

<仕様案アジェンダ案>

項目①	項目②	記述内容
1	仕様案の概要	<p>目的と背景 範囲定義</p> <p>保育ICTシステムー感染症システム間のデータ連携について、実施する目的や背景を記述 データ連携の範囲について定義し記述</p>
2	システムアーキテクチャ	<p>保育ICTシステムのアーキテクチャの概要 感染症システムのアーキテクチャの概要</p> <p>システム全体の基本的な構造や設計思想について、システムを構成する要素（ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなど）とその相互関係を定義し全体像を記述</p> <p>データ連携方法(API、バッチ処理、リアルタイム連携等) 保育ICTシステムー感染症システム間のデータ連携方法を定義（連携方法、連携タイミング等）</p>
3	データ形式とプロトコル	<p>データフォーマット 通信プロトコル</p> <p>データフォーマット（例：JSON）の内容や通信方式（例：HTTPS）について、詳細を記述</p>
4	データ項目標準案	<p>施設情報・クラス情報（保育施設名、クラス情報等） 感染症情報（症状・疾患名）</p> <p>施設情報やクラスの定義情報を記述 連携対象とする症状・疾患の名称について定義し、表記名も記述</p>
5	データ変換仕様	<p>データマッピング（保育ICTシステムから感染症システムへのデータ変換ルール）</p> <p>保育ICTベンダー側のデータ内容と感染症システムのデータ内容の対応関係など、どのように変換を行うかを定義する</p>
6	エラーハンドリング	<p>データ受信の際のバリデーション エラー時の処理フロー</p> <p>受け取ったデータが、定義されたルールや要件に適合しているかを確認するプロセスについて記述 実行中にエラーが発生した際に、定義された一連の処理（エラーハンドリング）を実行する手順を記述（例：ログ記録、通知）</p>
7	セキュリティおよびプライバシー	<p>データの暗号化方法 アクセス制御と認証 プライバシー保護のための法令遵守事項</p> <p>データの暗号化方法の詳細について記述 ユーザーが「誰であるか」を確認する認証と、認証されたユーザーが「何に」「どこまで」アクセスできるかを定義し記述 プライバシー保護のための法令遵守事項を記述</p>
8	テスト計画	<p>テストの種類と目的</p> <p>テストの目的や種類、対象範囲、スケジュール、体制、必要なリソース、リスクとその対策などを詳細に定義し記述</p>
9	スケジュール	<p>開発のタイムライン データ連携の開始時期</p> <p>開発のタイムライン等スケジュールを記載 データ連携の開始時期等スケジュールを記載</p>
10	参考情報	<p>用語集</p> <p>用語の解説について記述</p>

保育実証の進捗状況（仕様案策定に向けた今後の進め方）

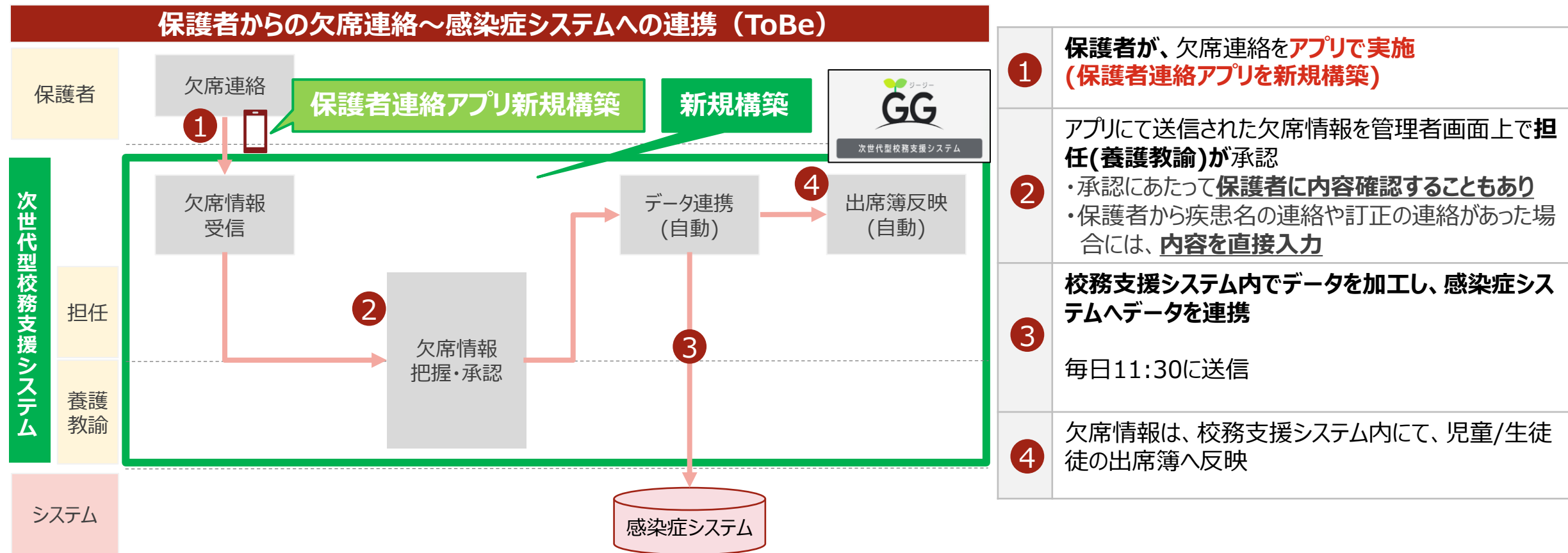
- ✓ 仕様案を事務局にて作成のうえ、業界団体や関係省庁等をはじめとする関係者の皆様方から個別ヒアリング等によりご意見をいただいたうえで、第4回事業運営検討会にて仕様案として提示させていただく想定です。

	今後の進め方	実施時期
ドラフト版の作成	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 実証環境の構築にあたって実施した事項や、感染症システムにおけるインターフェース定義書等を参考として、事務局にて仕様案のドラフト版を作成 ✓ 特に、「疾患登録」画面へのデータ連携方法の具体案を中心として、これまでの議論を反映 	2025/11月～
ドラフト版に対する意見聴取	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ドラフト版をもとに、事務局にて論点となる事項を洗い出し、関係者に対して意見聴取を実施 ✓ 個別ヒアリング及び書面における意見照会のうえ、効率的に各者からの意見を集約（日本学校保健会様、こどもDX推進協会様、関係省庁、群馬県関係部局等） ✓ 特に、「疾患登録」画面へのデータ連携方法の具体案の実現可能性等について精緻化 	2025/12月～
意見を反映し最終化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事務局にて、個別ヒアリングや書面による意見照会、プレ検討会等の結果をドラフト版に反映し、仕様案として最終化 ✓ 第4回事業運営検討会(来年2月開催予定)にて提示し、合意形成 ✓ 最終的には、仕様案の最終版を、第5回事業運営検討会にて共有 	2026/1月～

校務実証の進捗状況

【再掲】校務実証の進捗状況（実証の全体像）

- ✓ 保護者がアプリ上で入力した欠席情報が、学校側で教職員が校務支援システム上で承認することにより、感染症システムへ自動連携されます。また、出欠情報は校務管理に活用され、これまで月末にまとめて手入力で行っていた、児童/生徒の出席簿の作成が、日々自動作成され、不要となります。



校務実証の進捗状況（保護者連絡アプリ・校務支援システムの構築）

- ✓ 保護者連絡アプリにおける欠席連絡画面の構築に加え、必要なアプリ審査等の手続きを実施したほか、校務支援システムにおける「出欠席・健康観察」画面を構築中です。今後は、アプリの作成や保護者マニュアル等の作成を進め、三学期の始業式にて保護者に対しアプリによる欠席連絡の依頼を行い、試行運用を開始する予定です。

保護者連絡アプリ・校務支援システムの開発

これまでの 実施事項

- 保護者連絡アプリの欠席連絡画面の設計・作成
- アプリのストア申請（iOS、Androidそれぞれ）
- 校務支援システムにおける「出欠席・健康観察」画面の設計・構築
- 市町村教育委員会、学校に対し導入スケジュール等の通知、デモの実施 等

今後の 検討内容 (予定)

- デモ版アプリの作成
- 保護者向けのアプリの操作マニュアル等の作成
- 校務支援システムに児童/生徒のデータ投入
- 各学校から保護者に対し、**三学期の始業式(1月)においてアプリのダウンロード・アプリによる欠席連絡を依頼**
- アプリ～校務支援システム～感染症システムへの**自動連携は1月から実施**(アプリダウンロード後、欠席者の発生次第、データ連携)
- 管轄保健所への説明

校務実証の進捗状況（保護者連絡アプリ・校務支援システムの構築）

- ✓ 保護者連絡アプリの欠席連絡画面は以下のイメージで構築しています。

保護者連絡アプリの欠席連絡画面

The image displays three sequential screenshots of the parent contact app's absenteeism notification screen, labeled V1, V2, and a time-expired state.

- Screen 1 (V1):** Shows the initial form with fields for child name (勅使河原 新太郎), date (2025年6月10日), and reason (selectable). A '送信する' (Send) button is active.
- Screen 2 (V2):** Shows an updated form with a list of reasons (遅刻, 欠席, 早退) and a selected reason (発熱). The '送信する' button remains active.
- Screen 3 (Time expired):** Shows a message indicating the notification time has passed and a phone number (01-2345-6789) for contact. The '送信する' button is disabled.

校務実証の進捗状況（保護者連絡アプリ・校務支援システムの構築）

- ✓保護者による欠席連絡後、教職員は出欠情報確認画面上で対象者を選択し、ボタンをクリックするだけで連絡内容が正式な出席簿として反映されます。

校務支援システム上の出欠情報確認画面

児童生徒 > 出欠席/時数 > 出欠席・健康観察

出欠健康観察 居所不明一覧

クラス: 2-03 日付: 2025/09/04 出席簿表示

リセット 保存 保護者連絡反映 ボタンをクリック

転出等	出席番号	氏名	出席以外	出席以外理由	教室外登校	備考	健康観察 -項目-	保護者連絡 出欠席	保護者連絡 理由詳細
<input checked="" type="checkbox"/>	14	さんぶる 004	出停	水疱				欠席	水疱瘡(みずぼうそう)

② ✓を付与

① 自動格納

④ 正式な出席簿として反映

～保護者による出欠席情報送信後の教職員の一連の操作例～

- 1.保護者による欠席連絡送信後、対象データを保護者連絡項目に自動格納を確認
- 2.教職員が、対象となる児童生徒を選択し、✓を付与
- 3.教職員が、「保護者連絡反映」ボタンをクリック
- 4.システムにより、正式な出席簿として自動反映を確認

校務実証の進捗状況（保護者連絡アプリと校務支援システム間の連携インターフェース構築）

- ✓ 保護者連絡アプリと校務支援システム間のデータ連携仕様について検討を進めており、APIの設計・開発を実施中です。
- ✓ 今後は、データ項目の調整とアクセス制御等に関する機能を実装のうえ、各種テストを実施し、保護者によるアプリからの欠席連絡が開始される1月から、データ連携を開始予定です。

保護者連絡アプリと校務支援システム間の連携インターフェース構築

これまでの 検討内容

- 保護者連絡アプリと校務支援システム間のデータ連携について、認証方式や連携タイミング等の検討（保護者がアプリから情報送信した時点で校務支援システムにデータ送信することを想定）
- APIの設計、開発 等

今後の 検討内容 (予定)

- ダミーデータをもとにデータ連携のための結合テスト等**各種テストを実施**
- ID管理、認証管理等、必要な**アクセス制御等に関する事項の実装**
- アプリによる欠席連絡を起点に、**校務支援システムへのデータ連携は1月から開始**（アプリダウンロード後、欠席者が発生次第、データが連携）

校務実証の進捗状況（実証フィールドとなる学校の選定状況等について）

- ✓ 実証対象となる学校の決定に向けて、関係所属等への事前説明及び調整を開始しています。
- ✓ 三学期の始業式（1月上旬）にて、保護者に対しアプリのダウンロード案内などを行い、試行運用を本格開始する予定です。

	今後の進め方	実施時期
対象校の選定	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 県内3町村の複数校を対象とする方針として、所轄の教育事務所、町村の教育委員会に対し事前説明を開始し、対象校の選定に向けて協議中 ✓ 12月中旬を目途に対象校を決定 	11月～12月
対象校への事前説明	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 対象校に対し、実証協力依頼、事前説明等を実施するほか、現状の欠席連絡の受付から感染症システムへのデータ投入に至る業務フロー等を把握（アンケートやヒアリングを想定） 	～12月
保護者への協力依頼・試行運用開始	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各学校から保護者に対し、三学期の始業式にて実証の内容等について説明し、保護者連絡アプリのダウンロード・アプリによる欠席連絡について依頼 ✓ アプリによる欠席連絡の送信・感染症システムへの連携等、各種実証を開始 	2026/1月上旬～

校務実証の進捗状況（実証の効果検証について）

- ✓ アプリ導入により削減された電話対応時間、感染症システム自体への入力削減時間や確認に要していた時間等を把握するほか、削減された時間で、新たに実施できた業務などをアンケート及びヒアリングにて把握することを想定しています。
- ✓ アンケート項目詳細は次頁参照。

対象者	実証対象の学校（調整中）のクラス担任、養護教諭、校長、副校長等を想定
方法	<ul style="list-style-type: none">・アンケート及びヒアリング・校務支援システムから欠席情報のデータを抽出し分析を実施
期待される効果	電話対応、感染症システム自体への入力 時間削減 、入力に必要な 確認作業等の時間削減（結果Output） 削減時間を別業務に充てることによる、 学校業務そのものの更なる充実（成果Outcome）

今後のスケジュール 事務連絡

（再掲）今後のスケジュール

- ✓第1回以降、試行運用の開始前、途上及び年度末にチェックポイントとして検討会を開催し、試行運用内容や仕様案の検討状況等に対する意見聴取を行うことを想定しており、年度内で5回開催する予定です。

検討会	開催時期	目的	アジェンダ（予定）	参加者	開催場所
第1回 事業運営検討会	2025/8/7	関係者全員一同に会し、今後の方針、スケジュール等の認識合わせを行う 保育・校務の検討状況を共有	【キックオフ】 ・全体スケジュールの確認 ・実証に向けた検討状況共有 等	全者を想定 （国の機関含む）	オンライン を想定
第2回 事業運営検討会	2025/10月頃	保育ICTシステムに係る改修の試行運用を11月から開始するにあたり、検討状況、スケジュール等確認	【個別事項】 ・API連携の仕様案・データ標準案の策定にあたっての進捗状況共有 ・課題、検討事項について確認 【仕様案ドラフト検討状況の提示】 ・仕様案ドラフトについての内容共有、意見聴取、合意	保育系関係者中心	
第3回 事業運営検討会	2025/12月頃	校務支援システム及び汎用クラウドツール保護者連絡アプリに係る改修の試行運用を1月から開始するにあたり、検討状況、スケジュール等を確認	【実証開始に向けた確認】 ・実証に向けた検討状況、実証イメージ等の詳細を共有、意見聴取、合意	校務系関係者中心	
第4回 事業運営検討会	2025/2月初旬	仕様案ドラフト・効果検証についての内容議論、試行運用状況共有	【仕様案ドラフト、効果検証】 ・仕様案ドラフトについての内容提示、意見聴取、合意 ・効果検証内容についての内容確認 ・試行運用状況の共有、仕様案へ反映すべき事項について確認	保育系、校務系関係者を中心	
第5回 事業運営検討会	2026/3月中旬	仕様案最終版についての内容確認、意見聴取、合意 本事業の全体総括	【仕様案最終版の提示】 ・仕様案最終版についての内容提示、意見聴取、合意	全者を想定 （国の機関含む）	

事務連絡

- ✓ 第4回事業運営検討会について、ご調整いただきたくよろしくお願いいたします。

- **第4回事業運営検討会について**

- ✓ 2月上旬～を予定しております
- ✓ 事務局からご案内の連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします

Thank you

Two large, solid orange geometric shapes, resembling parallelograms, are positioned in the lower right quadrant of the slide. They are arranged in a staggered, overlapping fashion, with the top-right corner of the left shape overlapping the bottom-left corner of the right shape.

© 2025 PwC Consulting LLC. All rights reserved.

PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.

This content is for general information purposes only, and should not be used as a substitute for consultation with professional advisors.